歩いて会って何でも話す
ワクワクの突撃取材

あってグッド 34

市民の皆さんがたくさん登場

大勢集まりました

事務局長の六蔵さん。

今回は、「鮭の稚魚放流式」にお邪魔しました。このサケの稚魚の放流は、「長木川に鮭をのぼらせる会(石田寛、石田鉄雄、両代表)」が主催し、平成4年から始めているもので、今年で17回目。これまでに放流した稚魚の数は、なんと144万匹にもなるそうで、今年は、10万匹を放流します。

まずは、事務局長の**佐藤六蔵さん**(東台2区)にお話を伺いました。「皆さんと一緒に会を立ち上げて、これまで無我夢中でやってきました。サケは、日本海からオホーツク海へ出て、ベーリング海やアラスカ湾にまで行って、生まれた川にまた戻ってくる。その話を知って感動しました。ぜひ私たちの長木川にもサケを上らせたい。その思いだけで今までやってきました。大変なのは資金集め。個人の会員の皆さんと事業所などの法人や団体の会員の皆さん、お店に置かせてもらっている募金箱や市からの補助で卵を準備しています。10万匹を放流して、長木川まで戻ってくるのは300匹ぐらい。0・03%なんです。サケが上ってこれるようなきれいな川であるようにこれからもがんばっていきたいし、市民の皆さんにも協力して欲しい」。いつまでもきれいなままの長木川であって欲しいですね。

開会式で、作文を披露したのは**相馬真衣さん**(東二ツ屋)。「卵をもらって、毎日毎日観察していました。水の温度が低すぎないだろうかと、とっても心配していました。今日、放流できるのは、うれしいような、寂しいような気持ちでいっぱい。稚魚が大きくなって戻ってくる4年後には、放流した稚魚がみんな元気でこの長木川に帰ってきて欲しいし、稚魚が帰ってこられるよう、長木川や大館の自然を大切にしたいと思います」。真衣さんの願いがかないますように。

「自然を大切にしたい」真衣さん

☆今回訪ねたのは
「鮭の稚魚放流式」
H20．4．6取材